

インドネシアのコーヒー

今日、世界では水の次に多く消費されている飲み物がコーヒーであると言われています。もちろん、日本でも多くの人に親しまれているコーヒーですが、インドネシアがブラジル、ベトナムに次ぐ世界第3位のコーヒー輸出国であるという事実はあまり知られていません。

日本でも手に入るインドネシア産の主なコーヒーにはアチェのガヨ・マウンテン、スマトラのマンデリン、西ジャワのジャワ・ロブスター、中部スラウェシのトアルコ・トラジャなどがあります。また、ジャコウネコの糞から採られる未消化のコーヒー豆、コピ・ルアックは希少価値が高く、世界で最も高価なコーヒーと言われています。ジャコウネコ腸内の消化酵素の働きや腸内細菌による発酵によって独特の風味が加わるのだそうです。映画『最高の人生の見つけ方』では、ジャック・ニコルソン演じるお金持ちのエドワードも、それとは知らず愛飲していました。



インスタントコーヒー

世界中のほとんどのコーヒー産地と同様にインドネシアのコーヒー栽培の歴史も植民地支配と切り離すことができません。インドネシアでの本格的なコーヒー栽培は17世紀末にオランダの東インド会社によってインドからロブスター種の苗木がジャワ島に持ち込まれたことによって始まります。東インド会社はインドネシアにコーヒー栽培を導入した際、安価な指定価格で買い付け、輸出を独占しました。この「強制裁培制度」はバタビア（ジャカルタ）、スカブミ、ボゴール周辺から始まり、中部ジャワ、西ジャワ、スマトラ、スラウェシとインドネシア各地に広がっていきました。コーヒーはインドネシアの貴重な輸出収入源となっていくたのです。一方で住民は低い賃金を強いられ、そのほとんどを地租などで徴収されるなど過酷な生活を強いられました。

そんな植民地支配の遺物であるコーヒーですが、今日ではインドネシアの人々にも広く親しまれており、屋台などで手ごろな価格で楽しむことができます。

インドネシアで道端の屋台を覗くと何人かの男性が集まってコーヒーを飲みながら、おしゃべりしている光景を目にするのではないのでしょうか。話していることは、仕事のことや遊びのこと、噂話など日本人の男性とそんなに変わりはないでしょう。

一方、近年では若者がスターバックスやカフェでインターネットをしながらコーヒーを飲む光景も見られます。スターバックスは2013年から3年間でインドネシアに100店開設する計画を明らかにしました。これらは中産階級層の増加やインドネシアの順調な経済成長を物語っています。



コーヒーショップに集う若者たち

インドネシアではコーヒーにはたっぷりの砂糖を入れて飲みます。これには砂糖を入れないことは砂糖も買えないほどの貧しさを象徴する、砂糖を入れることで客人への歓迎を表すなど、様々ないわれがあるようです。

伝統的なインドネシアのコーヒーの飲み方は、コーヒーカップに極細に挽いたコーヒーと砂糖を入れ、お湯を注ぎます。その後コーヒーの粉末がカップの下に完全に沈んでからその上澄みだけを飲みます。ジャワでは特に、コーヒーの下に敷いたお皿にコーヒーを移し、冷めるのを待ってからお皿のコーヒーを啜って飲みます。

インドネシアを訪れた際は、道端の屋台でコーヒーを飲んでみてはいかがでしょうか。コーヒーのような身近なものにこそ現地の人々の生活や文化を知り、理解を深めるきっかけがあるのではないのでしょうか。

以上

<これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートは[こちら](#)から>

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地：WISMA NUSANTARA BUILDING 24th Floor

Jl. M. H Thamrin Kav 59 Jakarta Pusat Indonesia 10350

デスク担当者：PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。岡山県産業企画課[マーケティング推進室](#) (電話 086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。